

固定法

1 固定法

(1) 部位の確認

- どこが痛いのかたずねます。
- 痛がっているところに変形や出血がないかを確認します。

ポイント

- 確認する際は、できるだけ動かさないようにします。
- 骨折の状態
 - ・激しい痛みがあり、動かすことができない。
 - ・変形している。
 - ・骨が飛び出している。
- 骨折の疑いがある場合、骨折しているものとして手当します。

(2) 固定（そえ木、新聞紙、三角巾など身近なもので）

- 変形している場合は、無理に元の形に戻そうとははいけません。
- 協力者がいる場合は、骨折しているところを支えてもらいます。
- 傷病者自身が支えることができれば、自ら支えてもらいます。
- そえ木・重ねた新聞紙・ダンボールや雑誌等を当てます。
- 三角巾などでそえ木等に固定します。



ダンボールを使用した固定



三角巾などで腕をつる



足の固定（番号は三角巾で結ぶ順番）

ポイント

- そえ木等は、骨折部の上下の関節が固定できる長さのものを使用します。
- 固定する場合は、傷病者に知らせながら行い、顔色や表情を見ながら注意していきます。
- 太ももが変形している場合、骨が飛び出していたり変形している部分に傷がある場合にはすぐに119番通報してください。